2009年4月1日　（第24号）春号

獨協医科大学病院だより

Dokkyo Medical University Hospital News

平成21年（2009年）

4月

第24号

身近な病気Q&A

脳神経外科は「脳外科」か「神経外科」か?

脳神経外科　主任教授　金　彪

Q 脳神経外科はどういう疾患を扱うのですか？

本来、脳の手術だけではなく神経系全般の外科病態を扱う科です。したがって、脳に連なる脊髄と脊椎、末梢神経、脳に関連した血管、全て守備範囲に入っております。

Q 「脳外科」と「神経外科」はどう違うのですか？

日本以外の全ての国では、「脳外科」ではなく「神経外科」と呼びます。脳は神経系の一部にすぎず、われわれの科目は脊髄や末梢神経など神経系全体を扱うからです。これは中国、韓国、台湾、シンガポール、ベトナム、全ての漢字圏の国でそうです。もちろん、欧米諸国でも‘brain surgery’,‘ cerebral surgery’ とよばず、neurosurgery，neurochirurgieなど、全て「神経外科」にあたる言葉で呼びます

Q なぜ世界中で日本でだけ「脳外科」と呼ぶようになったのですか？

日本では、脳神経外科は腹部外科からわかれて独立した経緯があり、当時の中心的興味が、頭蓋を開けて脳の手術を行う技術に偏っていたために、「脳外科」と自称したのでしょう。またそのほうが社会的に、インパクトがあると感じられていたために「脳外科」とよぶようになってしまったのでしょう。

Q 最近はどのような状況でしょう？

最近では本来の神経外科としての守備範囲を回復しています。脊髄脊椎の領域では、首や腰の椎間板ヘルニアや狭窄症、変形性頚椎症、後縦靭帯骨化症などを脳神経外科の精密な技術を生かして、多数、治療しています。手根管症候群などの末梢神経も守備範囲です。

血管内外科は、脳に連なる血管をカテーテル、ステントやコイル留置で治療する技術ですが、頚動脈の狭窄や血栓症、動脈瘤などの治療が大変に進歩しています。MRI画像で位置決めした標的病変を精密に放射線の一回照射で治療する定位放射線治療、ガンマナイフも脳神経外科のなかで誕生し発達した技術です。

Q いろいろな領域があるようですが、どのような分野に分かれるのですか？

「神経外科」には7つの専門分野があるといってよいでしょう。

1、血管障害（脳動脈瘤、頸動脈狭窄、動静脈奇型、脳内出血、脳梗塞、クモ膜下出血など）

2、腫瘍（脳腫瘍、下垂体腫瘍、聴神経腫瘍、転移性脳腫瘍など）

3、脊椎脊髄外科（脊柱管狭窄、後縦靭帯骨化症、椎間板ヘルニア、脊髄腫瘍、空洞症、脊髄動静脈奇型）

4、機能外科（パーキンソン病、ふるえ等に対する定位的脳神経外科、てんかんの原因となる部分を切除して治療する、てんかん外科があります）

5、小児脳神経外科（主に小児の奇形や水頭症、あるいは小児の脳腫瘍を扱う領域です）

6、 血管内治療外科（血管病変をカテーテルを使って治療する技術が大変進歩しており専門性を要します）

7、定位放射線治療（ガンマナイフ）

これらすべての分野の専門家が同じ病院に集まって働いていることが、信頼できるよい治療のために必要です。専門に専念して多くの手術を経験することで、はじめて、その分野で一流であることが可能です。また一方で、これらの専門家たちが互いに密に連携協力する体制をとることが、患者さんの病態にあわせたよい治療のために必要です。

獨協医科大学脳神外科では早くからこの点を重要視して、各領域に専門性の高い専門家たちを配属し、一流の技術を集約、養成してきました。

Q 実際に獨協の脳神経外科では、どれくらいの数を治療しているのですか

手術室を使った脳や脊髄の手術で年間約700件。ガンマナイフが年間約150件程度。血管内治療が年間約70件、総数としてだいたい900程度の数で推移しています。これは全国に80ある医学部医科大学のなかでも最大クラスの規模であります。多くの信頼をいただいて、首都圏、東北地方はもちろん関西など全国遠方から治療を求めて多くの患者さんが訪れているのが現状です。

胸部大動脈瘤(下行大動脈瘤)に対してのステントグラフト治療も開始

胸部外科

腹部大動脈瘤に続き、11月に胸部大動脈瘤（下行大動脈瘤）に対しての、ステントグラフト治療を開始しました。

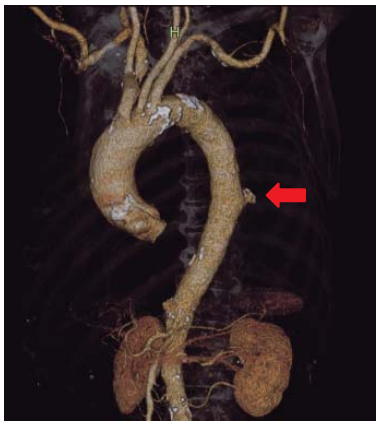
そもそも大動脈瘤とは？？大動脈がこぶ状に拡大する病気です。発症する部位によって上行大動脈瘤、弓部大動脈瘤、下行大動脈瘤、胸腹部大動脈瘤、腹部大動脈瘤などに分かれます。原因は動脈硬化による血管の劣化がおもな原因ですが、感染、外傷などにより起こることもあります。

大動脈瘤の多くは破裂しない限り症状がありませんが、破裂すると症状は重症で、激しい痛み、ショックなどを呈し、約半数が病院に着く前に命を落としてしまいます。そのため、検診などによる、早期診断が必要となってきます。また大動脈瘤は風船と同じで、大きいほど破裂しやすくなり、CTスキャンで胸部の場合は瘤径が50～60mm以上、腹部では40～45mm以上で手術適応となります。

治療方法は、破裂する前に動脈瘤の部分を人工の血管で置換する人工血管置換術という手術が行われます。大動脈瘤が頭の血管や脊髄の血管、内臓の血管を巻き込んでいる場合はそれらの血管も再建する必要があります。つまり、動脈瘤が広範囲なほど合併症を起こす可能性も増えてきます。一番怖い合併症は対麻痺（脊髄麻痺による下半身の麻痺）です。しかし近年においては、低侵襲であるステントグラフト内挿術という方法も行われるようになりました。左右の鼠径部を約5cmほど切って、大腿動脈からステントグラフトを挿入する術式です。腹部大動脈瘤のステントグラフト治療と同様に、手術の翌日から食事、歩行などが可能で、一週間後にCT施行し問題がなければ退院です。また、開胸しないため、呼吸機能の悪い閉塞性肺疾患などの患者様にも手術の適応となります。人工血管置換術の困難な80歳以上の高齢の方や、内蔵機能障害のある方、再手術で外側から剥離するのが難しい症例の場合、ステントグラフト治療のよい適応になります。

もし患者様の中で、また先生方でご加療いただいている患者様の中で、高齢（80歳以上）で、合併症のため手術を躊躇されている方がいましたら、低侵襲な治療であるステントグラフトの適応があるかどうかの診断だけでも可能ですので、胸部外科（心臓血管外科）外来にご相談ください。

胸部大動脈瘤症例



治療前

治療後

高齢にて患者様自身が、低侵襲の手術を希望したため、ステントグラフト治療を施行。

⬅大動脈瘤部位

施設課からのお知らせ

外来リフォーム工事の進捗状況について

現在、獨協医科大学病院では、来年３月までの予定で1，2階のリフォーム工事が行われております。ほぼ北半分が終了し、今年５月には残る南半分にある1階西側の外来が完成します。このエリアには、皮膚科、形成外科、循環器内科、心臓血管内科、心臓血管外科、胸部外科、呼吸器・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科、呼吸器内視鏡ｾﾝﾀｰが配置されます。

このエリアは、３つの「コの字」をした外来ゾーンで構成されています。皮膚科と形成外科ゾーン、循環器内科、心臓血管内科ゾーン、心臓血管外科、胸部外科、呼吸器・ｱﾚﾙｷﾞｰ内科ゾーンに分かれ、それぞれに共通の待合室があります。従来のような中待合室はなく、直接診察室に入る方式になります。

外来待合ホール完成イメージ

今までは、２階に内科系、１階に外科系を配置した形になっておりましたが、今回のリフォームでは、呼吸器系内科・外科、心臓系内科・外科、消化器系内科・外科等臓器別外来構想に基づいた外来配置をしております。呼吸器系内科・外科ゾーンには呼吸器内視鏡センターも整備拡充させました。

当該外来の引越しについては、５月の連休前後に実施するよう計画しています。詳細がまとまり次第、掲示板等にて皆様にお知らせする予定です。

次のリフォーム工事は、２階外来については半分ずつ工事を行う計画で２階のはじめの工程が５月から９月、次が９月から12月を予定しております。工事中仮の診察室への移転、通路の閉鎖等皆様には多大なご迷惑をおかけしております。今しばらくご迷惑をおかけしますがご協力のほどお願い申し上げます。

新館外壁工事について

平成21年１月から８月までの予定で新館の外壁塗装工事を実施しております。この建物は、平成８年８月に竣工し、13年を過ぎようとしており、経年による外壁の劣化が進んできていることから建物の維持、延命を目的として行っております。

外壁の塗装工事は、建物の美観を良くすることに加え、建物の強度を損なわないようにするために行います。建物は鉄筋コンクリートであっても経年変化により雨水がコンクリートの亀裂にしみこみ、鉄筋及び鉄骨に悪影響を与えて、建物そのものの強度不足や寿命を短くしてしまいますので、定期的なメンテナンスが必要になってきます。工事中は建物の周りに足場がかかり、うっとうしい状況になっておりますが、皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

病院ボランティア活動報告

『ビスケット（あそびの時間♪）』

平成21年2月23日（月）病院3階南病棟にて小児科の入院患者様を対象に病院ボランティア「あそびのじかん♪」を開催いたしました。

「あそびのじかん♪」とは、ケアサポートセンター ビスケットの相談支援専門員や音楽療法士（補）、ホームヘルパー等の各専門支援スタッフによる歌や音楽（聴覚）、また、ミラーボール等特殊な器具を使って光（視覚）を楽しむ総合レクレーションです。

下記の写真はその時の様子を撮影したものでご家族様からも大変ご好評をいただきました。

なお、当院ボランティアに関するご意見やご質問等ございましたら、連携医療部までお気軽にお問合せくださいませ。

平成21年度獨協医科大学公開講座（宇都宮市）

メインテーマ
　『認知症が疑われたら』
サブテーマ
　①「認知症を早期診断する」
　②「認知症の症状を理解する」
　③「相談窓口を知り手続きを理解する」
日　　時：６月27日（土）、７月４日（土）、
　　７月11日（土）
　　午後１時30分～３時
募集定員：80名
受講対象：一般
受 講 料：1,500円
会　　場：コンセーレアイリスホール
　　宇都宮市駒生１－１－６
申込方法：下記申込先にお電話またはFAXにて
　　お申し込みください。
　　※講座開始１か月前より受付開始
申 込 先：獨協医科大学総務課広報係
　　TEL 0282－87－2475
　　FAX 0282－86－5678

Seiko Lee soprano

セイコ・リー　ソプラノ

ヒーリング コンサート

Seiko Lee soprano プロフィール

Seiko Leeは、現在活躍中の在米日本人国際的ソプラノ歌手。類稀な聖霊を呼ぶ歌声で世界中の多くの人々を魅了。7歳からNHK東京児童合唱団の一員として数々のテレビ・ラジオ放送に出演。また、ヨーロッパ演奏旅行をしながら、小さな親善大使として日本の天皇及び世界各国貴賓の前で演奏。東京芸術大学を卒業後、オペラ活動を始める。1996年以来、ニューヨークシティシンフォニーの専属ソプラノ歌手として全米、海外で高い評価を受ける。2007年国連本部でのコンサートから世界演奏ツアーを行っている。2008年3月ネパール、6月日本においてピンクリボン支援のコンサートを行う。

2009 4/20（月）,22（水）

18：00開演　18：00開演

獨協医大30周年記念館関湊記念ホール

主催：獨協医科大学病院
獨協医科大学病院看護部
獨協医科大学病院超音波センター
後援：日本脳卒中協会栃木県支部
入場無料

獨協医科大学病院 さくらフェスタ 2009

開催日　4月10日(金) AM11:00～PM5：00
4月11日(土) AM11:00～PM3：00

※終了時間等は天候の状況により変更される場合がございますのご予めご了承下さい

会　場　獨協医科大学さくら通り

主催　獨協医科大学病院　さくらフェスタ運営委員会

協力団体　社会福祉法人 栃の木会

協賛会社　共栄商事グループ

ご存知ですか？

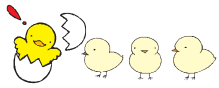
当院では専門看護師や認定看護師が活躍しています

専門・認定看護師紹介の第二弾は、成長・発達段階に沿った小児救急看護認定看護師と、感染防止に力を注いでいる感染管理認定看護師の紹介をさせていただきます。２人とも皆様のお役に立てるように日夜奮闘中です！！

こんにちは！小児救急看護認定看護師の尾島和美です。

私は小児科外来、小児科病棟（３階南病棟）で勤務をしています。「小児救急看護」というと小児の救急時のみに活動するように思われがちですが、小児看護のさまざまな場面で活動しています。外来受診、入院を問わず、お子様たちの健やかな成長発達のために、他職種との連携を図りながら、ニーズに合った看護を行っています。

お母様、お父様、ご家族の皆さま、困ったことやご相談がございましたらお声をかけてください.



はじめまして！感染管理認定看護師の香取三奈です。

病棟リンクナースへの座学と実習

私は、子ども医療センター（センター棟３階）、小児科外来に勤務をしていますが、週に１回は、院内の感染防止対策課で勤務をしながら、病院全体の感染管理プログラムを作成し、感染防止活動に力を注いでおります！！そこで皆様へのお願いです。感染防止対策の第一歩は**手指衛生**です。『自分を守る・相手を守る』意味でも手指衛生は重要ですので心がけてください。

一緒に予防していきましょう～

＊認定看護師は、日本看護協会が認可した研修期間で一定の研修後、認定試験に合格した看護師です。

編集後記

桜が咲いて、新しい季節がやってきました。

この春、新しい環境の下で新生活をスタートされた方もいらっしゃるのではないでしょうか？当院においても、採用、退職、異動等に伴い４月から新体制となっております。新年度にあたり、職員一同気持ちを新たに頑張っていきたいと思います。

今月号では、「さくらフェスタ」「ヒーリングコンサート」を案内させていただきました。どちらも２日間にわたり開催いたしますので、みなさま是非お出かけください。お待ちしております。

獨協医科大学病院だより第24号
〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地
TEL 0282-86-1111（代表）FAX 0282-86-4775
http://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/
発行年月日／平成21年４月１日
編集・発行／獨協医科大学病院広報誌委員会
印　　刷／㈱松井ピ･テ･オ･印刷